

論文以外のコンテンツ

著者	others
図書名	東洋大学創立100周年記念講演集
出版年月日	1989-03-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00006825/





東洋大学

創立一〇〇周年記念講演集



目次

発行によせて……………	理事長 田中栄次……………1
発行のことば……………	学長 神作光一……………2
特別記念講演会	
東洋大学の建学の精神と将来像……………	高木宏夫……………7
高等教育の未来……………	福井謙一……………19
哲学堂祭記念講演会	
日本人の宗教観……………	金岡秀友……………31
日本人の国際感覚……………	三浦朱門……………49
朝霞キャンパス記念講演会	
現代をどう生きるか——哲学と宗教から——……………	泉治典……………65
良識と法律……………	藤林益三……………79
日韓国際シンポジウム「伝統と近代化」……………	95
はじめに……………	97
I. 近代化に伴う社会変動——その構造と意識——	
近代化に伴う社会構造とその意識……………	朴在侃……………97
近代化に伴う社会変動——文化と人口行動——……………	河野稠果……………106
II. 地域からみた諸問題	
地域からみた諸問題……………	柳時中……………112
地域社会からみた伝統と近代化——日韓比較の試み——……………	高橋統一……………120

Ⅲ・教育から見た諸問題

韓国の教育における伝統と近代化……………郭 泳 宇……………128

明治以降の教育にみる近代化と伝統の関係について……………倉 内 史 郎……………131

シンポジウムを終えて……………針 生 清 人……………134

市民大学講座

我が国福祉社会の将来と問題点……………一番ヶ瀬 康子……………137

川越キャンパス記念講演会

21世紀に向けての埼玉県のヴィジョン……………畑 和……………153

21世紀に向けての技術革新の展望……………牧 野 昇……………169

市民大学講座合同講演「21世紀のアジアそして日本の産業」

日本の経営―その過去・現在・未来……………三 戸 公……………189

中国の企業管理体制の改革……………洪 宝 華……………203

アジア新興工業国と日本の競争分業……………青 山 浩 一 郎……………219

企業の社会的責任と収益性……………森 本 三 男……………265

白山キャンパス記念講演会「日本近代化100年と日本経済の進路」

―世界の中の日本の歩み……………建 元 正 弘……………293

―近代化百年と現代化百年の経済……………藤 井 隆……………307

私立大学学長シンポジウム「私立大学の将来」……………青木生子…321

石川忠雄

土田將雄

神作光一

倉内史郎

国際交流懇話会「国際社会における高等教育の役割」……………Donald Habbe…1

庄錫昌

黃樹槐

王鐘武

Gilbert Laustriat

Etienne Trocmé

Gérard Binder

Djoeriaman Oedjoe

創立100周年記念講演会開催一覧……………iv

講演部会委員……………ii

講演会を終えて……………講演部会長 吉田辰雄…1

発刊によせて

東洋大学創立一〇〇周年記念事業委員会会長

(理事長) 田 中 栄 次

わが東洋大学は、明治二〇年井上田了博士によって哲学館として創設され、その後、哲学館大学となり明治三九年現在の東洋大学と改められました。

創設者である井上田了博士は、創学の日より西欧文化と東洋文化の融合を図り、その基盤を哲学に求め、『真理は万世に亘りて変ずることなく宇宙を究めてつくることなし』とし、真理の探求を一般市民の生活の中に根付かせる事に、終生を賭したのであります。

この度、東洋大学創立一〇〇周年記念講演集を刊行することとなりました。ここに集録されたご講演は、第二世紀を歩み出した本学にとって、多くの示唆に富むものであり、裨益するところ甚だ大であります。これを機に創立者の建学の精神を踏まえ、二十一世紀に向けて、有為の人材を育成することにより、従来にまして、個性ある私立大学とするべく念願しております。

どうぞ、今後一層の御支援を賜はれば、私達にとりまして、この上なき喜びであります。

東洋大学創立100周年記念講演会

国際交流懇話会

「国際社会における高等教育の役割」

参加大学

- 復旦大学（中国）
- 華中工学院（中国）
（1988年3月1日より華中理工大学に改名）
- 上海對外貿易学院（中国）
- ストラスブール第1大学（フランス）
- ストラスブール第2大学（フランス）
- オート・アルザス大学（フランス）
- モンタナ大学（アメリカ）
- スラバヤ工科大学（インドネシア）

日時：1987年10月29日(木) 13:00～15:30

場所：東洋大学白山校舎1号館4階 視聴覚教室

主催：東洋大学創立100周年記念行事実行委員会

東洋大学学術公開交流委員会

国際交流懇話会「国際社会における高等教育の役割」	1
同上 目 次	2
総合司会 学術公開交流委員長 新田 俊三	3
開会の挨拶 東洋大学学長 神作 光一	3
懇話会「国際社会における高等教育の役割」	
(1)モンタナ大学	
Donald Habbe (ドナルド・ハービー) 教務担当副学長	4
(2)復旦大学	
庄 錫昌 (ソウ・シャクショウ) 副学長	6
(3)華中理工大	
黄 樹槐 (コウ・ジュカイ) 院長	10
(4)上海対外貿易学院	
王 鐘武 (オウ・ショウブ) 院長	14
——質疑応答——	16
(5)ストラスブール第1大学	
Gilbert Laustriat (ジルベール・ローストリア) 学長	18
(6)ストラスブール第2大学	
Etienne Trocmé (エティエンヌ・トロクメ) 学長	20
(7)オート・アルザス大学	
Gérard Binder (ジェラルール・バンデール) 学長	24
——質疑応答——	26
(8)スラバヤ工科大学	
Djoeriaman Oedjoe (ジュリアマン・ウジュ) 学長	28
——要 約——	36
閉会の挨拶 教務部長 吉田 辰雄	36

国際交流懇話会

「国際社会における高等教育の役割」

学術公開交流委員長 新田 俊三

東洋大学の協定各大学の学長先生のあいだでの国際交流懇話会, International Exchange Meeting をただ今から始めさせていただきます。総合司会ということで私, 新田が務めさせていただきます。大変短い時間ですが, 各大学の紹介, それから各大学の国際交流に取り組む基本的な考え方についてお話ししたいと思います。なお, 各大学の特色については, すでにお渡ししている資料がございます。ご来場の方はそれをご覧になっていただくことにしまして, お願いしました二つの点のうちの国際交流にかかわる基本的な考え方等々について, 重点的にお話しいただくという運営にしたいと思います。プログラムを若干変更いたします。時間の関係で, 今日アメリカにお帰りになられるモンタナ大学のハービー先生に最初にスピーチしていただきます。われわれの代表としまして, まず神作学長からお願いいたします。

「開会の挨拶」

東洋大学学長 神作 光一

ご紹介いただきました神作でございます。このようなかたちで100周年を迎えました本学が国際交流懇話会という会合を持てますことを本当に幸せに思っておりますし, 光栄に思っております。この機会を通じて9大学の様子をつぶさに教えていただき, また9大学の先生方にも私どもの大学の中身を知っていただき, この国際交流がより大きく結実することをお祈りして, 挨拶に代えさせていただきます。

Dr. Donald Habbe, Vice President of the University of Montana

President Kansaku, distinguished faculty, representatives of distinguished universities and good friends...

I'm proud to be a representative of the University of Montana and of president Koch at this important ceremony celebrating the 100th anniversary of Toyo University and of international cooperation and understanding. Yesterday, in his speech, President Kansaku told us of the importance of maintaining tradition but being able to change. Our university, the University of Montana, also believes it is important to remember the past but also to be able to look to the future and to change. Our university is a smaller university than Toyo University. It has about 8,000 students. It is a younger university. We will celebrate our 100th anniversary in 1993. But we do believe in the importance of the things that President Kansaku told us about yesterday. Let me give you an example of how this ought to work. Over 50 years ago, a young man from Montana, joined the United States Marine Corp. and was sent to China and Japan. He later came home and became a student at the University of Montana, where he studied history. After graduating he became a teacher at the university, teaching courses on Japan, China and the Far East. He then went into politics and became a national leader. Today, of course, he is the United States Ambassador to Japan, Ambassador Mansfield. As President Kansaku told us yesterday and as Ambassador Mansfield's example shows us, it is important to study and know the past, to be able to practice relationships and diplomacy among nations. That is why it is so important to have universities that emphasize traditional studies but prepare their students for international understanding through international relationships. And that is why we are so proud to be partners with Toyo University in this important work. Thank you very much. Domo arigato.

モンタナ大学 ドナルド・ハービー 教務担当副学長

神作学長、卓越した教授の方々、すばらしい各大学の代表者の皆様方、よき友人である皆様方。私はモンタナ大学の代表として、クック学長の代理として、東洋大学の100周年を記念し、この国際的な交流と理解のための、この重要な儀式に列席できたことを光栄に存じております。昨日、神作学長がスピーチのなかで伝統というのは非常に重要ですが、変化できるも必要だとおっしゃっています。もちろん私どもの大学でも、過去のことをいつも覚えているのは非常に重要ですが、将来を見つめ、変化することも重要であると認識しています。モンタナ大学の規模は東洋大学より小さく、学生は8,000人ほどです。歴史は東洋大学より短く、1993年に100周年を祝うことになります。そういう違いにもかかわらず、神作学長が昨日おっしゃったことは私どもも非常に重要なことだと思っています。では、どういうふうにすれば伝統と将来の組み合わせを活かすことができるかということについてお話ししたいと思います。50年以上も前になりますが、モンタナ出身のある若者が合衆国の海兵隊に入隊し、日本と中国に派遣されました。後に合衆国に戻ってモンタナ大学に入学し、歴史を勉強しました。卒業後、この男性はモンタナ大学で教鞭をとり、日本のこと、中国のこと、そして極東のことを教えました。その後、彼は政界に入り、全国的な政治のリーダーになりました。何を隠そう、それは現在の日本大使であるマンスフィールド大使です。神作学長が昨日おっしゃったように、またこのマンスフィールド大使の例が示すように、国家間の関係や外交を維持することができるように過去を研究し、知ることが必要であります。だからこそ、伝統的な研究を強調する一方で、学生に国際交流を通して国家間の理解させる教育をする大学が必要なのであります。だからこそ私どもとしては、この重要な仕事で東洋大学のパートナーになることができることを誇りに思っています。ご拝聴ありがとうございました。ドーモ・アリガトウ。

尊敬的神作校长，尊敬株主席先生、尊敬的在座各位、先生们、女士们，我有幸代表复旦大学参加东洋大学的一百周年的校庆，感到非常荣幸。今天，我就代表我们的校长谢希德教授接受了贵校的荣誉博士的学位，我非常的感谢。今天，我十分荣幸，能够有机会来参加这个研讨会，介绍我们复旦大学的情况以及发表我们的想法。今天因为时间有限，我只能够简学介绍一下复旦的情况以及介绍一下我们这两年的教学改革的情况。复旦大学没有象东洋大学有那么悠久的历史，复旦大学建立在一九〇五年。当时，是有一批爱国的教授和学生建立的，主要的目的是为了发展中国独立自主的教育事业。建立的初期，学校的规模是很小的，当时，我们中国正处于，国运经难的时候。所以一直到一九四九年的时候，学校也只有二千多人左右。在一九四九年以后，到了一九六六年这个期间，复旦大学的教育事业发展是比较快的。不幸是，结果就发生了所谓的“文化革命”，使中国的教育事业受到了严重的挫折，复旦大学的教育事业也受到很大的损伤。一九七六年以后，又得到了恢复。这两年的发展是比较迅速的，现在，我们全学校有学生一万一千多人，其中，女学生是二千七百多人，就占四分之一。这两年，到我们复旦大学来留学的外国学生也越来越多。现在，我们接受了三百五十名，将近三百五十名外国留学生。我也能很高兴地告诉在座各位，在这三百五十名外国留学生中间，有一百四十七人，是从贵国来的，就是日本留学生。我们学校近几年，已经跟十二个国家的六十所大学建立了正式的友好合作文化交流关系，经常进行国际性的文化交流。我们正在进一步创造条件，继续扩大国际交流，进一步创造条件，接受更多的外国留学生，我们更希望有更多的日本的朋友、日本的留学生到我们复旦大学去留学或者访问。这两年，我们的学校也进行了各方面的改革。主要要解决的一个问题，就是使学生有更强的实践的能力。因为近几年，我们发现我们的学生有一个弱点，就是我们中国话叫作“高分低能”这就是，他们的成绩很好，但是，工作的能力比较薄弱。我们叫做它“高分低能”。我们大概做了这个几个方面的工作，就是一个是改革我们的教育机构，使我们设立一些更有实践意义的课程。第二方面，我们做的事情呢，我们是增加各种类型的教育，比如，有一些函授的、或者是短时间的，所以，现在我们有其他除了刚才讲的以外，一万一千名学生之处，还有其他各类的学生，将近一万余人。我们采取了三个措施来改进我们的教育方法。第一个方法，就是鼓励教师在教学、课堂教育中，采用启发式的教育方法。第二个方法就是鼓励学生，进行自教、自学活动。第三个措施，我们就是让学生走出校园，到社会上去参加一些活动。这

復旦大学 庄 錫昌 副学長

尊敬する神作学長、尊敬するご来席の皆様。私は幸運にも復旦大学の代表として東洋大学の100周年記念式典に参加させていただきましたことを光栄に思っております。今日、わが復旦大学の学長謝希德教授の代わりに東洋大学の名誉博士の学位をいただき、大変ありがたく思っております。また、懇話会に参加するチャンスを得、復旦大学の状況の紹介と、私たちの考え方を述べる場をいただけたことを大変光栄に思っております。時間の制限もあり、今日は簡単にわが復旦大学の状況と、この2年間の教育改革についてお話ししたいと思います。復旦大学の歴史は東洋大学ほど長くなく、1905年に創立されました。当時、愛国心のある教授と学生によって創立され、中国の独立自主的な教育事業を発展させるのが主な目的でした。創立当初は学校の規模は小さく、当時中国の国も困難な状況にあり、1949年まで学生はわずか約2,000人でした。1949年から1966年までの期間、復旦大学の教育事業の発展は比較的早いものでした。不幸なことに、文化大革命が起り、中国の教育事業は深刻な挫折に陥り、復旦大学の教育事業も大きな損害を受けました。1976年以後、ようやく回復をいたしました。この2年間の発展は早く、現在、復旦大学は全体で11,000人以上の学生を有し、そのうち女子学生は約2,700人で、学生総数の4分の1を占めています。この2年間、復旦大学に来る留学生もだんだん増え、現在350人近い留学生がいます。大変喜ばしいことに、この350人の留学生中、147人は日本人留学生です。復旦大学はこの数年ですでに12カ国の60の大学と正式な交友協力関係を持ち、常に国際的な文化交流が行われています。これからも続けて国際交流を拡大し、もっと多くの留学生を受け入れる条件を整えようと思っています。又、さらに多くの日本の友人、日本の留学生が復旦大学に来られることを希望いたします。ここ2年で、私たちは各方面の改革を行いました。主に解決しなければならない問題は学生たちの実践的能力を強めることです。何故ならここ数年で私たちは学生の1つの弱点を発見しました。すなわち、中国語で言う“高分低能”、学生は成績はよいのですが、実際の仕事をすると能力が低いということです。私たちは次のような仕事にとりくみました。1つには、教育機構を改善することです。すなわち、実践性の高い課程を設立することです。第2点は、各種類の教育を増すことです。例えば、通信教育とか短期間の教育等です。ですから、先ほど申し上げました11,000人の学生のほかに様々な学生が、10,000人近くおります。我々は、3つの措置を取り、教育方法の改善につとめました。1つには、教師が授業中に啓発的な教育法を取り入れることを奨励することです。2つには、学生たちが自分たちで教え、学ぶことを積極的に進めることです。3つには、学生をキャンパスから出して社会の活動に参加させることです。

一类活动，使学生们能够进一步认识社会，培养他们适应社会的能力，也增强了他们对社会的一种责任感。比如，去年，我们就组织了一部分学生，组织了一个是中国西北地区的考察团，让他们自己到中国的西藏、新疆、青海去考察，请他们提出怎么样促使这个地区的经济发展的意见。总之，我们认识到，世界和人类的新会是在千变万化的。我们在学校的教育，没有办法预测学生们在将来要碰到什么问题，所以，我们不可能叫它一种，中国话叫作“锦囊妙计”，就是什么地方都可以用的办法，是没有的。所以，我们在教学上主要做到一点，就是激发潜在青年人中的一种创造精神，就是激发他们的创造精神，让他们自己去解决各种问题。最后，我们做到的一件主要的事情，就是培养学生优良的品质。正象贵校的创建者——井上圆了先生讲的，一切学说的基础，就是哲学。我们也认为，一个人的自立思想是非常重要的。所以，我们尽量培养我们复旦大学的学生，能够成为优良品德的青年，使他们对中国和全人类都能够做出贡献。我们要改革，就要学习世界各国的经验，所以，国际上的学术交流是非常重要的。东洋大学的一百年的历史，也是我们非常值得学习的经验。再次感谢有这样的机会，做这个讲演。

これらの活動は学生たちに社会をさらに認識させ、社会に適応する能力を伸ばし、社会に対する責任感を強めることができると思います。たとえば去年、私たちは学生の中国西北地区視察団を組織しました。彼らにチベット、新疆、青海、などの地域を視察させ、どのようにこれらの地域の経済発展を促進させるかという意見を出させました。世界及び人類社会は変化が激しく私達は学校教育において、学生たちが将来どんな問題に直面するか予測できません。従って私たちは中国語で云う“綿囊妙計”つまり万全の策は無いのだと認識しました。それ故私たちの教育の主な目的は、若者の潜在する創造の精神をかきたてて、自分たちで問題の解決にあたることが大事だと教えることです。最後に、私たちが主として力を入れているのは学生の長所を伸ばすことです。これは東洋大学の創立者の井上円了先生がおっしゃったように、「諸学の基礎は哲学にあり」ということです。私たちも一人の人間の自立思想はとても重要だと思って居ります。ですからわが復旦大学の学生に、品のある道德の面でも優れた青年になってもらおうと力を入れています。それによって中国、そして全人類に対し貢献できる人間になってもらいたいと思っています。私たちは教育改革を進めるなかで、世界各国の経験を学ばねばなりません。そのため国際的学術交流は非常に大事であると思っています。東洋大学の100年の歴史は、わが大学にとって学ぶ価値が非常に高いものと考えております。改めて、このような機会にスピーチさせていただきましたことにお礼を申し上げます。

尊敬的学长、尊敬的主席、女士们、先生们：我应邀代表华中工学院，专程参加贵校建立一百周年庆典，感到非常荣幸。今天，贵校授与我名誉博士学位，我感到非常荣幸，并表示深切的感谢。今天，学长先生召开这个座谈会，使我有机会同各个国家的校长及各位先生互相交流，更是高兴。华中工学院是中国教育委员会直接领导的、全国重点大学之一。我们学校虽然是一九五三年组建的学校，但是，建校的时候，集中了我国中部地区原有几所历史悠久的、工科学校的教师和仪器设备。经过三十多年的建设和发展，学校的结构和规模都有了很大的变化。已经由原来的工科大学发展成为具有文科、理科、工科和管理学科的综合大学。许多外国朋友都认为我们现在这个学校的校名，有些名不符实。我们学校设有研究生院，经济管理学院以及二十七个系和部、附有五十三个大学的本科专业、五十个硕士生专业和二十一个博士生专业。现有教师二千六百人，在校的学生一万五千人。学校还设有出版社、附属中学、小学、幼儿园、职工医院、学校的占地面积二百公顷。遵照国家对重点大学要担负起培养高级专门人才和发展科学技术分化的要求，我们一贯坚持教学和科研、科学研学并重的原则，努力把学校办成既是教育中心，又是科学研究中心。三十多年来，我们学校为国家培养和输送了大方面的人才，他们中的大多数，已经成为我国“四化”建设的骨干力量。在教学工作中，我们重视现代科学技术的发展和国内外各大学的教学经验，注意基础理论的教学和学生能力的训练，培养学生的创造意识。在科学工作中，近五年来，我们学校先后取得了几百项科研成果，其中一百多项获得了国家的奖励。我们学校十分重视国际交流和合作，先后同日本、美国、英国、德国、法国、加拿大等国共二十七所大学签订了校际合作和交流协议。近几年，我们先后派出了六百名教师和学生出国作为访问学者或者攻读博士学位。每年，我们还要接待几百名来访的外国朋友和外国留学生。我们感到非常高兴的是，我们和贵校也建立了姐妹学校的关系。我们同贵校两校的合作关系虽然不长，但是，我取得很好的进展。我们先后接待了贵校的高木先生、新田先生、吉田先生、还有贵校的学长先生到我们学校去访问。我们希望贵校会有更多的先生到我们学校访问。我们一定热情接待。我们认为，国际交流和合作不仅对于双方都是有利的，而且，可以促进友谊、和平和社会发展。我们从国际交流和合作中，深感在大学同行中，我们有着许多共同点。贵校创始人——井上圆了博士使我十分钦佩。他的教学思想，富有远见卓识。我非常赞赏他的名言“哲学是诸学的基础”，学校教育要与社会教育相结合。我非常赞赏贵校一百周年典礼上，理事长和校长

華中工学院 黄 樹槐 院長

尊敬する学長先生、ご来席の皆様、私は華中工学院の代表として貴校の創立100周年記念の式典に参加させていただきましたこと大変光栄に思っております。今日は貴校から名誉博士の学位をいただきまして、大変光栄に思っておりますとともに、深く感謝申し上げます。今日、このような懇話会が開かれ、各国の学長先生及び皆様と交流する機会を得ましたこと大変うれしく思っております。華中工学院は中国教育委員会の直接指導のものの全国重点大学の一つです。わが大学は1953年に創立されましたが、当初は中国の中部地区のもともとある歴史のながい工科大学の教師と機械設備などを集めて作った学校です。30年余りの建設と発展を経て、学校の組織、規模は大きく変化しました。元来の工科大学から、すでに文科系、理科系、工学系、管理学系を合わせた総合大学になりました。たくさんの外国の方々は、私たちの華中工学院という現在の校名は名にそぐわないと思っておられるでしょう。わが大学は大学院、経済管理学院及び27の学部があり、53の専門と、52の修士コース、21の博士コースがあります。大学の教員は2,600人で、学生数は15,000人です。大学にはまだ出版社、附属高校、中学校、小学校、幼稚園、教職員病院、などがあり、学校の面積は200ヘクタールです。国家の重点大学に対する要求、つまり、高度の専門家を育てること、科学技術を発展させるという要求に従い、一貫して教学と科学研究を同時に重じ、学校を教育の中心また、科学研究の中心にしようと努力しています。30年来、私たちの大学は国家のために多岐にわたる人材を育て、輩出しており、彼らの大部分はすでに我国の“四つの近代化”建設の力強い中堅となっています。私たちは教育において現代科学技術の発展と国内外の各大学の実験経験を重視し、基礎理論の教育と学生の能力の訓練に留意し、学生の創造能力を高めようとしています。科学研究については、ここ5年来、私たちは何百もの項目において成果をあげ、そのなかの100あまりの項目は、わが国の奨励を得ました。私たちの大学は国際交流も重視しており、日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、カナダ等の27の大学と協力、交流協定を結びました。ここ数年、客員教員や博士課程学生として600人の教師や学生を海外に派遣しております。毎年、何百名もの外国の友人や留学生を迎えています。大変うれしいことに、東洋大学とも姉妹校の関係を築くことができました。貴校とは協力関係になってまだ間もないですが、大変よい進展にあると思います。貴校の高木先生、新田先生、吉田先生さらには貴校の学長先生も本校でお迎えしたことがあります。もっとたくさんの貴校の先生方が私どもの学校にいらっしゃることを希望いたします。私たちは大いに歓迎いたします。国際交流や協力は双方の大学にとって有利だけでなく、友情や世界平和、社会の発展をも促進できると思います。国際交流や協力のなかで、私は大学の同業者においてはたくさんの共通点があると深く、感じます。東洋大学の創立者の井上円了博士は私が大変尊敬する方です。先生の教育思想は先見性に卓越したものだと思います。私は先生の名言「諸学の基礎は哲学にあり」を賞賛いたします。学校教育は社会教育と結合しなければなりません。貴校の100周年式典の際の理事長先生

先生的很好的讲演。二十一世纪是继续高度发达的世纪，也是国际化、信息化的世纪，面向二十一世纪，培养更加有为的人材，作为大学校长，我们肩负着同样的历史重任。我相信贵校在继承和发扬井上圆了博士的教育思想、继承和发扬一百年来优良传统的基础上，一定会以更加坚定有力的步伐，迈进新的一百年。我祝愿贵校繁荣昌盛。祝愿贵我两校之间的友谊万古长青，祝愿在座的各大学之间的友谊进一步发展。

谢谢大家。

と学長先生の講演も大変賞賛いたします。21世紀は高度成長が継続する時代で、また国際化、情報化の時代でもあります。21世紀に向けて、さらにりっぱな人材を育てることは大学の学長として私たちは同じ歴史的重要な任務を負っています。東洋大学は井上円了博士の教育思想を受継ぎ発展させ、100年来のすぐれた伝統の基礎の上に、今後さらに確かな力強い新しい100年を歩み出されることを信じています。貴校のご繁栄をお祈りするとともに、私たち両校の友情が永遠に栄えること、また、ご在席の各大学の友情がさらに深まることをお祈りいたします。どうもありがとうございました。

校长先生、学术公开交流委员会的委员长先生、女士们、先生们：很高兴，在这里有机会做很简短的发言。刚才被授予荣誉博士学位，感到非常荣幸。上海对外贸易学院是中央经济对外贸易部下面的一所直属的大学。我们学校里除了五个系之外，还有经济研究所、咨询所和法律事务所。随着对外开放政策的贯彻，我们学校里面的要进行了多形式的、多层次的为学。我们的全日制有本科生、有研究生、有双学位生、第二硕士学位生、有大专生。我们非全制的有夜大学、有自学考试的制度，还有我们的经理岗位培训。我们的国家授权我们，对于对外经济贸易的企业的经理们，要进行培训，要进行考试，否则的话，他们是没有资格当经理的。每年，我们要对贸易的经理，要举行两次培训。我们学校的学生有二千四百余人，另外，我们还为社会上不同的需要，举办培训班，有一万二千多次。正因为我们学校是对外经济贸易的，所以，我们非常重视国际的学术交流。因为它的好处，第一是使得二方面学校能够受益，收到好处。第二有助于两国国家的经济贸易关系的发展。第三，加强人民之间的友好。我们十分重视和东洋大学的校际交流关系。通过两个学校校长的互相访问，我们两校的关系将进一步发展。为了加强双方之间的关系，我觉得在下面三个面，可以进行思考。第一，教师互访。互相访问我们可以派教师到东洋大学来作短期的讲学。东洋大学教授们可以到我们学校去讲学或者进行调查访问，我们完全可以为你们接排。第二，学生交流。我们可以为东洋大学的本科生或者研究生进行各种不同目的的短期的学习，为你们举办学习班。欧洲的学生有的学生在我们这里学习一周，有的学习二、三个月，我们都为他们组织很好的短期学习班。我们上午给他们讲课、下午给他们参观、访问、座谈，他们感到非常高兴。在这一方面，我们从我们来说，我们就希望派青年教师到你们贵来进修。最后，第三点，我们进行科学研究的合作。我想最好的方式是合作举办研讨会。我们曾经和国外举办了中国经济法律的、和发展国家贸易关系的研讨会，都很成功。因为我们学校里面有很好的很舒服的宾馆，可以接待大家。在我结束讲话之前，我对东洋大学的领导、各位先生对我们的接待表示万分的感谢。

上海對外貿易學院 王 鐘武 院長

学長先生、学術公開交流委員会委員長先生、ご来席の皆様。ここで短いスピーチをさせていただくことを大変うれしく思っております。先ほど名誉博士の学位をいただきまして大変光栄に思っております。上海對外貿易學院は中央經濟對外貿易部の下に直属する大学です。私たちの大学は五つの学部のほかに、經濟研究所、コンサルタント事務所、法律事務所があります。對外開放政策の徹底に伴い、わが大学は多種多様な教育方法をとっています。私たちの大学の全日制には本科の学生、大学院生、2学部専攻学生、第2修士学生、専門大学生がいます。非全日制には夜間大学や独学卒業制度、又、經理養生があります。国家が我々に對外經濟貿易企業の經理に対し、訓練や試験を行う権限を与えています。そして学生はそれを通らなければ、經理になる資格がありません。毎年我々は貿易關係の經理に対し2回の訓練を行っています。大学の在校生は2,400人あまりです。他に我々は社会の異なるニーズに合わせて、毎年12,000回以上の養成班を行っています。わが大学は對外經濟貿易の大学ですから、國際學術交流の面には大変力を入れています。その長所の第一は、両方の大学が利益を受けることができるということです。2番目は2国間の經濟貿易關係の發展に役に立つことです。3番目は両国の人民の友好關係を強めることです。私たちは東洋大学との國際的な交流關係を大変重視しています。両校の学長のお互いの訪問によって、両校の協力關係をさらに發展させることができるでしょう。双方間の關係を強めるために、次の三つの方面を考えてゆきたいと思います。1番目は教師の相互の訪問です。私たちは教師を東洋大学に派遣し、短期の講義を行うことが可能です。東洋大学の先生方も私たちの大学にいらして、講義あるいは調査活動を行うことが可能です。私達はそのための準備をすることができます。2番目は学生交流です。東洋大学の大学生、大学院生のために目的を異にする短期留学のコースをつくることができます。ヨーロッパの或る学生は、1週間また、或る学生は2、3カ月というふうに、私たちのところで短期留学を行っています。午前中は授業、午後は參觀、訪問、座談会を行っています。彼らは大変喜んでいます。一方こちらのほうから言いますと、若い教師を貴校に派遣して研修させたいと思っています。最後に3番目は科学研究の合作です。一番いい方式は共同で研究討論会を開くことだと思います。今までに外国と中國經濟法律や貿易關係發展に関する研究討論会を開いたことがあります。共に大変成功を収めました。私たちの大学のなかには大変いい快適なホテルがあり、皆様をお待ちしています。私の話を終える前に、東洋大学各位先生の温かいおもてなしに対し、心から感謝の意を表します。

资疑应答

（及川）那么，刚才，副校长先生说，为了使做社会活动，叫学生到外头去工作、活动，如果是很多学生派到外头去，他们不能参加校内的学习活动，那时间不能太长，那么，大概，他们在校外活动有多少时间？

（庄）主要利用暑假。

（后藤）我是工学部的后藤圭司。我想对华中工学院的校长和复旦大学的副校长，提一个问题，中国最近在推行工业化，国家很大、资源也丰富、中国人民也热心工作、我想将来一定会有很大的发展。推行工业化必然就会影响环境，造成环境污染，日本在这方面做得并不好。中国这方面是怎么做的？我很想知道，在今天，手里拿到的资料上看，就是中国这几所大学里，都没有环境保护学科，我想知道中国在这方面教学和研究是怎样进行的。

（庄）我先讲一下，我们复旦大学是有关于环境保护专业的。一个设在化学系里面，它有环境保护专业，另外，经济学院里面有环境保护的经济专业。另外，我知道就在上海地区其它学院也有，交通大学、同济大学，还有，我可以告诉大家，我的孩子是上海同济学院的，他就是学的环境保护。象黄院长知道的情况比我更详细。

（黄）我们国家的环境问题，这个问题，确实是随着工业的发展，也是越来越突出。这些年来，国家也制定了有关的法律和规定。并且，设置了有关机构和管理环境这个问题，不仅是国家有这样的机构，就包括下面的工厂以及学校也有同样的机构。我们学校就有一个环境保护办公室。

—質疑応答—

(及川) 中国西北経済開発考察団のことを言われましたが、その期間はどのくらいでしょう。あまり期間が長いと、学内での基礎的な授業との時間的なバランスはどういうふうにお考えでしょうか。

(庄) 主に夏休みを利用しています。

(後藤) 工学部の後藤圭司です。主として華中工学院の黄先生と復旦大学の庄先生にお聞きしたいんですが、御国ではいま非常な勢いで工業化を進めていらっしゃるというふうに聞いております。国土は広く、資源も多く、大勢の方々が熱心に働いておられるので、きっとすばらしい発展がなし遂げられると存じます。大きな問題は、工業化の発展と共に否応なしに環境が破壊されているという現象がございまして、環境を破壊することなく工業化を進めるという、非常に大きな矛盾に当面することになると思います。その点、日本は必ずしもそれをうまく乗り切ったと言えない状況にありまして、いろいろな政策のために激しい環境破壊が横ばいになったという程度で推移しているわけです。ところが、今日拝見しましたメモには環境保全を担当するような学部、学科の名前が残念ながら書かれていないわけですが、そのへんの教育あるいは研究に関する現状についてお話しただければ幸いです。

(庄) まず復旦大学のお話をします。復旦大学に環境保護に関する学科が設けられています。二つあって、一つは化学部のなかに環境保護学科があります。もう一つは経済学院のなかに環境保護の経済学科が設けられています。上海のほかの大学例えば交通大学、同済大学にも環境保護に関する学科を設けてあるように聞いています。ここで言っておきたいのは、私の子どもも同済大学で環境保護を専門にやっています。華中工学院の黄先生のほうが私よりもよくご存じです。

(黄) わが国の環境問題は工業化の発展が進むにつれて、ますますクローズアップしてきています。ここ数年、国はそれに関係する法律や規定を作りました。並びに、関係機構を設置しました。この環境管理の問題ですが、国だけではなくて、工場や学校でも環境保護の機構を設けており、私たちの大学でも環境保護事務室があります。

Président Gilbert Laustriat, Université Louis Pasteur

Monsieur le Président Kansaku, messieurs les Présidents, mes chers collègues, chers étudiants. C'est pour moi un grand honneur d'être le premier président français à prendre le parole et je parlerai au nom de l'université que je préside. Monsieur Trocmé qui est également président de toutes les universités de France pourra vous parler d'une manière plus générale. L'université que je préside est l'université Louis Pasteur. Ce nom était choisis parce que c'est une université scientifique et médicale qui sont les deux grands domaines de Louis Pasteur. Parmi les universités françaises scientifiques et médicales, les caractéristiques de cette université sont d'avoir une recherche très particulièrement développée, c'est le développement de la recherche et, caractérisé de plusieurs manières mais peut-être, par le fait que 9 de nos professeurs appartiennent à l'Académie Nationale des Sciences. Nous avons été fier, cette année, que l'un entre eux obtienne le Prix Nobel en chimie. Les principaux domaines d'activités sont: la chimie, la physique, la pharmacologie et un point que nous partageons avec l'Université de Toyo, les Sciences économiques. Quant aux échanges internationaux, nous avons des relations très développées avec de nombreux pays plus particulièrement actuellement avec les États Unis. Nous avons des conventions avec plus de 30 universités. Nous sommes convaincu que nous devrions diversifier et amplifier les échanges de professeurs et d'étudiants avec les autres universités. Nous avons deux actions en cours; la première s'explique par la géographie. Strasbourg est situé sur la frontière qui est proche de l'Allemagne et la Suisse et de la Belgique et, entre les universités de cette région des liens très étroits sont en train de se tisser. Nous avons en projet, une carte d'étudiant commune pour toutes les universités de la région. Le projet est presque terminé. Et notre deuxième action concerne le Japon, nous pensons, nous avons l'intention de développer nos relations avec le Japon. En effet actuellement, nous avons plus de chercheurs japonais à Strasbourg que de strasbourgeois au Japon et nous voulons encourager par des actions spécifiques le voyage et le séjour de chercheurs strasbourgeois au Japon. C'est pourquoi nous sommes très sensible à l'initiative prise par l'Université de Toyo de nous avoir invité ici et je remercie l'Université de Toyo qui pourrait constituer un élément important pour nous et cette politique vis-à-vis du Japon. Et donc pour terminer, je voudrais au Président Kansaku et à l'Université de Toyo, dire mes remerciements et mes félicitations pour l'organisation de ce colloque.

ストラスブール第1大学 ジルベール・ローストリア 学長

神作学長、それにここにお集りの学長先生、教員の皆様方、学生の皆様方、私は本日、フランスの3人の学長のなかで第1番目にお話しさせていただくことを大変ありがたく思っております。ストラスブール第2大学のトロクメ学長先生が、フランス全国大学協会の会長をなさっておりますので、トロクメ学長からは、より一般的なお話しがうかがえると思います。そのため、私の方は、私が学長をしておりますストラスブール第1大学についてお話しいたします。私が学長をしておりますストラスブール第1大学は〔正式には〕ルイ・パスツール大学です。この名前が選ばれたのは、私どもの大学が医学と化学の二つの分野を大きく扱っているからです。この二つはルイ・パスツールの分野であったと言われます。私どもの大学は、化学と医学を扱っているフランスの大学のなかでも、きわめて発展した研究部門をもっている、という特徴があります。いろいろな性格がありまして、それをいろいろな方法でお話しすることができるとは思いますが、特に専門的に発展した研究をやっているということが挙げられます。たとえば、私どもの大学の9人の教授がフランスの国立科学アカデミーの会員です。今年、非常にすばらしいできごとがありました。私どもが誇っていることなんですが、私どもの科学アカデミーの会員の一人がノーベル化学賞を受賞しました。私どもの大学の重要な分野としましては化学、物理、薬学、そしてまた東洋大学との交流において重要な分野を占める経済学があります。国際交流の方面でも私どもは盛んな活動しております。多くの国との交流がありますが、特に米国との交流が盛んです。私どもの大学では30以上の大学と交流があります。たとえば他国の教授の方々や学生との交流を数多くして重要性をもたせることは非常に大切であると確信しております。この点で、特に二つの活動を挙げることができると思います。まず地理的な問題が挙げられます。ストラスブールが位置している地理的な問題です。ストラスブールというのはドイツ、スイス、そしてベルギーに近接した国境に接しています。これらの国境にはいくつかの大学がありまして、学生に関してある計画を私どもは作っています。その計画というのは、これらの四つの大学に在学しているすべての学生に共通の学生証を発行するというものです。この計画はもうすぐ実施することができる状態にあります。活動の2番目の点は日本です。日本との交流をますます深めていきたいと思っております。実は、日本から私どもの大学に来ている研究者の人数は、日本に滞在しているストラスブール人の数より多いということです。ですから、私どもはストラスブールの人々に、日本に研究しに行くように言って、そのための援助をしようと思っているところです。私どもはこういう考えから、東洋大学のほうでイニシアティブをとっていただいて、私たちが招待されたことに非常に感謝しています。この東洋大学との交流がストラスブールと日本との交流の主な柱になることを祈っております。おしまいに、このようなシンポジウムの機会を作ってくださいました神作学長と東洋大学にお礼を申し上げたいと思います。これからの東洋大学の発展をお祈りいたします。どうもありがとうございました。

Président Etienne Trocmé,
Université des Sciences Humaines de Strasbourg

Mosieur le Président de l'Université de Toyo, mes collègues présidents, chers collègues, chers étudiants. L'Heure avance, mon propos sera bref. Permettez-moi tout d'abord en ma qualité de président de l'assemblée des présidents d'universités françaises, de vous saluer très cordialement au nom de toutes les universités françaises. Laissez-moi simplement citer quelques chiffres: 75 universités plus d'un million d'étudiants dont beaucoup plus de 100,000 sont des étudiants étrangers environ 2500 accords entre les universités françaises et les universités étrangères. Ceci simplement pour dire que les universités françaises sont largement ouvertes sur le monde et que notre présence ici est tout à fait conforme à nos coutumes. Un mot maintenant de la coopération en matière relations internationales entre les 4 universités d'Alsaces, les 3 universités de Strasbourg et l'Université de Haute-Alsace. Monsieur Laustriat a fait allusion, tout à l'heure, à notre coopération avec les universités Suisses et Allemandes voisines de notre région. Je n'ajouterai qu'un mot que se relie à la conversation qui a eu lieu tout à l'heure. Nous avons organisé en commun, cet été la première activité commune avec les autres universités un grand colloque sur les problèmes de défense de l'environnement. Un thème très important dans la vallée du Rhin où l'industrie pollue depuis des dizaines d'années. Quelques mots maintenant à propos des Sciences Humaines de Strasbourg et de ces relations internationales. Dans cette université des sciences humaines, il y a environ 9500 étudiants, plus de 1500 sont des étrangers. Je peux ajouter que depuis 30 ans j'ai des étudiants japonais qui sont toujours excellents. Mon université gère environ 25 accords avec des universités étrangères dont la moitié en Europe y compris l'Europe de l'est. Nous avons 7 accords avec l'Amérique du nord, 4 en Afrique, et seulement 2 en Asie, dont l'accord avec l'Université de Toyo. Il était en vérité grands temps que nous découvrions l'Asie. Deux ou trois remarques à propos de ces accords qui s'appliquent à l'accord que nous avons avec l'Université de Toyo. Il est vrai que les colloques scientifiques communs que les séjours de chercheurs dans les universités avec les quelles on a des accords, que les échanges de publication sont tout à fait importants. Mais le bon fonctionnement d'un accord se mesure à l'intensité des échanges d'étudiants et d'enseignants. Les échanges d'enseignants sont tout à fait importants, parfois un peu difficile à organiser mais finalement relativement simple si la barrière des langues n'est pas trop élevée. Et je voudrais dire en terminant que le véritable test pour un accord entre universités, ce sont les échanges d'étudiants. Mais les échanges d'étudiants sont ce qu'il y a de plus difficile à organiser pour toutes sortes de raisons. Mais, ce sont ceux qui préparent l'avenir. Un jeune qui a séjourné dans une université étrangère revient différent et il est prêt à voir le monde avec d'autres yeux.

ストラスブール第2大学 エティエンヌ・トロクメ 学長

東洋大学の学長先生、ここにいらっしゃる学長の皆様、そして教員の皆様、学生の皆様、今日の私の話は短くしようと思っております。まず、フランス大学協会の会長としての言葉をさしあげたいと思います。フランスの全ての大学に代わりまして、ごあいさつ申し上げます。フランスの大学を紹介するために、いくつかの数字をご紹介したいと思います。フランスには75の大学があります。そのなかには100万人以上の学生がいて、うち10万人以上が外国人の学生です。2,500ほどの大学と国際交流しています。この数字をご紹介したことで、フランスの大学が世界に門戸を開いているということがおわかりと思います。ですから、私どもがここで皆様にお話をしているのは、わが国の大学の習慣に合致しているのです。アルザスにある4つの大学、ストラスブールの3つの大学と、オート・アルザス大学、この4つの大学間でも、国際交流と同様の協力体制をとっています。ストラスブール第1大学のロストリア学長先生が、さきほどスイスとかドイツ、フランスの国境にある大学との交流についてお話しなさいました。先ほどの会議の場面に合わせて一つだけお話ししたいと思います。私どもはいろいろな機関を大学内で作り上げましたが、最初の共同の活動として、これらの大学が集まりまして、環境保護に関して、この夏に、討論会を持ったことがあります。これは環境保護という問題ですが、ライン川の産業汚染に関して十何年来、この問題が大きく取り上げられています。最後に、ストラスブール第2大学の人文科学の部門と国際交流に関してお話ししたいと思います。この大学には9,500人の学生がいて、そのうち1,500人以上が外国人です。この30年のあいだに日本人の優秀な学生を受け入れてきたことを付け加えたいと思います。私どもの大学では、外国の大学とのあいだで、だいたい25程度の国際交流のプログラムがありまして、そのうちの半分はヨーロッパ各国です。そのなかには東欧も含みます。そのほかには北米と七つの交流をしています。アフリカとは四つ、アジア諸国とは二つの交流しかありませんが、そのうちの一つは東洋大学です。私どもがアジアのことを知りたいと思ってから、長い期間がかかっております。東洋大学との交流協定の適用について、2、3、申しあげます。東洋大学との交流に関して、もちろん研究者間の学問的な交流ということで、印刷物を交換したり会議をもったりするのは非常に重要なことです。それと同時に、交流のなかで重要な位置を占めているのは学生交流と教育者の交流です。もちろん教員の交流も非常に重要ですが、ときにこういうものを計画するのは難しいことがあります。しかし言語的なバリアーがそう高くなければ、複雑なことではないと思います。最後に申し上げたいことは、真の交流の試練というのは学生の交流にあるのではないかということです。学生の交流が難しいというのはいろいろな理由が考えられますが、若い人を交流に出すということは将来を担う人を出すということで、非常に重要だと思います。交流から戻ってきた学生はどこか違うところを身につけていまして、同じものを見るにしても非常に新しい見方をします。

Mon souhait pour l'accord que nous avons signé avec l'Université de Toyo serait que nous arrivions à pratiquer régulièrement des échanges d'étudiants. C'est très difficile, c'est aussi très important. De notre côté, nous ferons tout ce que nous pourrons pour y parvenir. La coopération avec les quatre universités Alsaciennes sera indispensable pour arriver à ce résultat. Mais peut-être d'ici peu d'années pourrons nous récolter quelques fruits. Merci de votre attention.

東洋大学とのあいだで調印しました協定に関して私の将来における願いとして、東洋大学との交流が定期的な学生の交流、留学ということで実現できればと思っております。学生の交流というのは非常に困難ですが、非常に重要なことです。これをやることができれば私は本望です。この計画を実現するためには、四つのアルザスの大学との協力が必要だと思いますが、ここ何年かのうちに多少のよい結果を得ると思います。どうもありがとうございました。

Président Gérard Binder, Université de Haute Alsace

Monsiuer le Président Kansaku, Messieurs les Présidents, chers collègues, chers étudiants. Il est toujours très difficile de parler presque le dernier, mais c'est le travail d'un enseignant que d'arriver à conserver l'attention des élèves. Nous vivons une grande époque de mutations et on sait actuellement que 80% des produits qui seront consommés en l'an 2000 restent à imaginer et à concevoir. Le monde de demain sera un monde de communication et il nous faut appredre à travailler avec ceux qui hier étaient des étrangers et qui aujourd'hui sont des partenaires. Et la réunion d'aujourd'hui nous montre que l'apprentissage de deux ou trois langues pour tout individu quelque soit sa spécialité sera nécessaire. Ce sera un facteur de progrès. Un bref regard sur le passé nous permet de constater que nous avons mis 1 ou 2 millénaires pour arriver à un agriculture moderne. Seulement 150 ans ont été nécessaire pour nous doter d'une industrie satisfaisante, productive, et non polluante. Et moins de dix ans nous sont accordé pour rentrer dans l'ère de la communication. Pour cela les universites doivent mobiliser les énergies et unir leurs efforts. Je voudrais, très modestement, vous suggérer 4 points qui me semblent etre les conditions de succès. Tout d'abord, il faut centrer nos efforts sur des objectifs précis et identifier en se fixant un temps à terme précis. Deuxièmement, il faut savoir que rien ne se fait sans passion. La passion se cultive, elle se transmet. Tout professeur ne doit pas oublier que le message qu'il doit transmettre passera mieux lorsqu'il arrive à communiquer sa passion aux étudiants. Troisièmement, pour gagner il faut avoir du plaisir à jouer. Ceci est vrai pour les sportifs qui peuvent s'absorber à un entraînement sévère que lorsqu'il y trouve un plaisir. Mais c'est vrai aussi pour les chercheurs, une motivation se fabrique et se cultive. Et enfin, et la, je rejoinds nos amis chinois qui parlaient de morale. A mon sense une des loix du succès est qu'il faut une morale interne forte. La réussite va toujours avec une éthique personnelle. J'ai modestement la profonde conviction que le troisième millènaire sera spirituel ou il ne sera pas. Les universitaires ont la charge de la jeunesse qui vient à elle et qui demain exerceront des responsabilités précises. C'est l'investissement le plus important et le plus fécond que nous avons à faire. Et la collaboration internationale entre les universirés sera la clef de cette réussite. Voilà ce qu'un responsable d'une université techonologique tenait à vous dire aujourd'hui.

オート・アルザス大学 ジェラルド・バンデール 学長

神作学長、ここにいらっしゃる学長の皆様、教員の皆様、学生の皆様、一番最後にお話しするのは困難なことです、教員の一つの仕事として学生の注意を傾けてもらうということがありますので、お話ししたいと思います。現在、我々は大きな変革期に生きております。西暦2000年に消費されると思われる80%の生産物をこれから作り、構想していかなければなりません。明日の世界はコミュニケーションの時代であると言えます。昨日までは外国人であったのが、今日または明日になればパートナーになる人々といっしょに仕事をするということが考えられます。今日の懇話会からおわかりのように、専門が何であれ、一人の人が二つから三つの言葉を話さなければならないということが必要になってきています。過去というものを簡単に見ますと、たとえば農業は昔の原始的な農業から近代的な農業へ移り変わるまで1000年を必要としています。150年という期間が、産業革命が発達してから公害などを廃して産業を発達させていくということまでたどりつくのに必要でした。コミュニケーションの時代というのは10年足らずしかたっていません。このため、大学の持つエネルギーを集めて、努力を結集しなければなりません。ここに成功のための四つのカギを考えましたので述べたいと思います。まず一つ目に、目的を明確に決めるということです。集中的にエネルギーを使い、時間をはっきりさせるということです。二つ目に情熱を忘れてはなりません。この情熱というのがすべての始まりです。たとえば教授が学生に何かを伝えたいと思うとき、教授自身の情熱を学生に伝えることが非常に大切になってきます。次に3番目ですが、喜びを忘れてはいけません。研究の世界でも何の世界でも、喜びを見つけることによって勝つことができます。スポーツの選手に関して言えば、自分でプレーをしているときに喜びを見つけることは簡単です。しかし、研究者の場合でも自分のやる気によって向上していきますし、成功に及ぶということが言えると思います。4番目は、先ほどの中国の教授の方々のお話にもありましたが、道徳ということです。私の考えでは、個人の内部の強い道徳観念がなければ成功には及ばないと思います。成功への道は、いつでも個人の倫理とともにあります。私の個人的な弱気な観測なんです、2000年を過ぎて次の1000年間は、道徳というのは小さな位置しか占めていかないのではないかと懸念しています。大学は若い人の責任を担っています。この若い人というのは将来にわたって活躍していく人たちでありまして、彼らが将来の責任をはっきりとしたかたちで担っていくと思います。将来に対して若い人たちに投資するというのが、世の中をよくしていく一番の道だと思っています。もちろん、国際的な大学間における協力も成功を担う大事な担い手であると信じています。これが私が言いたいところです。どうもありがとうございました。

— Discussion —

[Ogura] Professeur Ogura-Département de l'économie. Je fais de l'histoire de l'économie européennes. Je suis tout à fait d'accord et je suis aussi très impressionné par les présidents de l'université de Strasbourg surtout: les jeunes sont un investissement pour le futur. Et ils ont noté que l'échange serait très important. Ce n'est pas que nous avons pas le désir pour avoir un échange spécial pour les étudiants. Mais, jusqu'à maintenant nous avons eu beaucoup de difficultés pour organiser cet échange pour les étudiants. Une des difficultés que je peux noter ici, c'est le problème budgétaire. Ça veut dire dans les termes concrets pour nous à l'Université de Toyo ici, qui aura des échanges pour les étudiants. Nous avons besoin d'avoir une maison ou un appartement spécial pour les étranger ou bien..... une bourse spéciale. Je sais qu'il existe des boursiers du gouvernement français d'abord... mais pour obtenir ces bourses c'est vraiment difficile. Je peux noter ici qu'il y a environ 40 étudiants qui sont acceptés autant que boursier par le Japon. C'est ne pas facile même pour les étudiants. Et je voudrais savoir si ce serait possible pour vous Monsieur le président de l'Université de Strasbourg ou d'Alsace, de nous dire si vous voyez quelques problèmes spéciaux dans ces échanges. Est ce que ce serait possible pour vous d'implanter quelque chose de concret pour ces échanges.

[Trocme] Nous avons pas de réponses simples à cette question. Je peux dire cependant que nous avons espoir que les milieux économiques régionaux..... nous aiderons à financier des bourses pour des étudiants qui viendrait à Strasbourg ou à Mulhouse.

— 質疑応答 —

(小倉) 経済学部の小倉と申します。私はヨーロッパの経済史を専攻しております。いまのストラスブール大学の先生方がおっしゃったことに私は大変感銘を受けました。特に若い人たち、学生の交流ということについて力説されました。私どもは学生の交流ということについて考えないわけではないんですが、いろんな困難があるために躊躇しております。その場合の大きな問題の一つは経済的な問題だろうと思います。たとえば東洋大学ですと、外国から来ていただく学生のために、宿舍とか奨学金を用意しなければならないということになります。そこで伺いたいんです。フランスにはフランス政府奨学金があることは知っていますが、それをわれわれ日本の学生が受けようとする大変難しく、かなりハイレベルでないと合格するのは困難です。そこで、たとえば東洋大学との交流が進展した場合に、もっとアンダーグラジュエイトの学生を受け入れるような奨学金、あるいは可能性があるのかお伺いしたいと思います。

(トロクメ) はっきりしたお答えをここで出すことはできませんが、いろんな可能性が考えられるのではないかと思います。討論する余地があると思います。たとえばアルザス経済界で費用を出して、東洋大学からこちらに来ていただく可能性はあるということです。

Dr. Djoeriaman Oedjoe,

Rector of Institut Teknologi Sepuluh Nopember

Mr. president of Toyo University, distinguished colleague presidents, faculty members, ladies and gentlemen. It is very difficult for me to speak in front of you, because, unfortunately, I cannot use my own language. As you know, English is a foreign language to me and it is also difficult. But unfortunately if I speak here in the Indonesian language I think no one would be able to translate it into other languages. So, please accept my apologies that my speech will be not running very well. Another thing that I want to mention here also, is that so far we have heard speeches from universities which have been really developed and established.

The history of higher education in my country is a very short one. Probably you know that we proclaimed our independence on the 17th of August 1945. So, at that time we declared our independence, and the development itself has just started since April 1969, through a series of successive 5 year plans. We are now at the fifth year of the fourth five year plan. And the product of the developmental process so far are considered to be satisfactory. And through what is called the 3 loci concept of development, the development has been spread throughout the country and enjoyed by all strata of the people. However, it is realized that the struggle for prosperity is still a long way. Much more effort and hard work is still to be done. And many more 5 year plans to be planned and executed. It is estimated that at the 6th 5 year plan Indonesia will just come to the take-off position.

Education has received much attention in the national development and is included as one of the highest priorities. Primary education at the present time has been declared to be compulsory. Improvement and development in education cover all levels from primary to higher education. The history of higher education in my country is relatively short. It started in 1920 when a technical higher school in Bandung was founded. Then, followed by several higher schools such as medical, dental, agriculture, veterinary science, law in the late 20's. In 1948 all these institutions were eventually amalgamated into one university in the country, that is the Hussein Centre in Jakarta, which is now called the University of Indonesia. The second university was founded in 1949 in Jogjakarta which is now called the University of Godjah Mada.

スラバヤ工科大学 ジュリアマン・ウジュ 学長

東洋大学学長様、各大学の学長様方、秀れた教授の皆様方、ご出席の皆様、私は今日ここで皆様の前でお話しするのは非常に困難です。と申しますのは、不幸にして私は母国語を使えないからです。ご承知のように英語は私にとって外国語であり、また困難です。しかし、不幸にして、もし私がここでインドネシア語で話しても、どなたも他の外国語に通訳できないと思います。そこで、これからお話しすることがそんなにスラスラとはいかないと思いますが、お許し下さい。もう一つお話ししたいのは、今までここでお話のあった大学の皆様方は、非常に進歩した伝統ある大学のことをお話しなさっていらっしゃるということです。

インドネシアにおける高等教育というのは歴史が非常に短いんです。恐らくご存知でしょうが、インドネシアの国自体、1945年8月17日に独立を布告しました。つまり、その時点で私たちは独立を宣言し、1969年4月から一連の5カ年計画を通じて実際の発展が始まったわけでございます。今年は第4番目の5カ年計画の第5年目に当たります。現在までの発展過程の成果は満足すべきものと考えられています。いわゆる発展の三つの原則を通して、国中に発展が広がり、各階級の国民がこれを享受してまいりました。しかしながら繁栄のための努力をまだ続けていかなければならないと私共は痛感しています。さらに多くの努力と重ねていかなければなりません。多くの5カ年計画を立てて執行していかなければなりません。予想されているところによりますと、これからまた第6次5カ年計画をすぐに着手することになります。

国を発展させる上で、教育が大いに注目されてまいり、国の最優先事の一つに取り入れられております。現在初等教育が義務教育になっております。教育の改革は初等教育から高等教育のすべての段階に及ぶものであります。私どもの国の高等教育の歴史は比較的短いものです。1920年にバンドンで技術高等専門学校ができたのが高等教育の始まりです。1920年代の後半になりますと、医学、歯学、農学、法学などの高等専門学校ができました。1948年になりますと、いま申し上げました学校は一つの大きな学校に統一されることになりました。これがジャカルタのフセインセンターで今日インドネシア大学と呼ばれています。1949年に2番目の大学がジョクジャカルタにできました。それは現在ガジャマダ大学と呼ばれています。

The growth of higher education may be reflected by the following student figures. In 1940 we had only 600 students. In 1951 we had only 6600 students. In 1961 we have 100,000 students. In 1966 we have 250,000 students. And in 1986 we have 1,460,000 students, both public and private and also departments institutions. So the number of the institutions themselves, I mentioned to you, is only 1 in 1948, 2 in 1949, and in 1986 we have 45 public universities, institutes and academies, and more than 700 private universities and more than 100 higher institutes of learning belonging to various departments. So you can see that in quantity we have been bettering our education.

Now I'll mention to you about the role and function of Indonesian universities. So, what I'm talking about now is theoretical. I think, basically, the universities and institutes of higher learning in Indonesia are different than other countries. They are an agent of development and modernization. In doing so, the universities or higher education in Indonesia has 3 functions. The first one is the function of education. The second is the function of research and development. And the third one is public service. Basically, I think these functions are the same all over the world. So, in one of the three functions, that is, public service I mentioned to you, the students have to stay in villages for about two to three months and offer their help in the development of the particular area. This is among others especially for the students. It is a compulsory course.

In the area of playing its role, higher education in my country faces several fundamental or key issues. The first one is the issue of quantity. The second one is the issue of quality. The third one is the issue of productivity. The fourth one is the issue of relevance. The fifth one is the issue of equity. The sixth one is the issue of future. The last one is the issue of system dynamics. In the attempt to cope with the issues in higher education mentioned above various problems arise. These problems are: number 1, teaching and research staff; number 2, the problem of management; number 3, the problem of student input; number 4, the problem of library material; number 5, the problem of laboratory equipment; next, problem of space and lastly, the problem of funding.

次にお話しする学生数の伸びが高等教育の発展を示しているのではないかと思います。まず1940年には1,600人、51年には6,600人、61年には10万人、66年には25万人、86年には146万人になりました。これは公立と私立と単科の教育施設を含みます。教育施設の数、48年にはただ一つ、49年には二つだけと申し上げました。86年には計45の公立の大学、単科大学、高等教育とか機関が、そして700以上の私立大学と100以上の高等専門学校ができました。これはわが国が教育の量的発展を遂げてきたことを示しています。

まず、インドネシアの大学の役割と機能を手短にお話ししたいと思います。そこで私が今考えていることは理論上のことです。そもそもインドネシアにおける大学及び高等教育機関は他の国々と異なっています。それらは発展と近代化のための手段であります。こうした役割を荷ないつつ、インドネシアの大学あるいは高等教育は三つの機能をもっています。特に三つの機能を挙げますと、1番目は教育、2番目は研究と発展であります。3番目は公共奉仕です。基本的には、こうした機能は世界中同じであると私は思います。私が申し上げた三つの機能の一つ、つまり公共奉仕において、学生たちは月に2、3カ月入り、特定の地域の発展の手助けをすることが義務づけられています。これはとりわけ特に学生のためのものです。これは必須科目であります。

インドネシアの高等教育はその役割を演ずる上でいくつかの基本的な問題に直面しています。1番目は量の問題、2番目は質の問題、3番目は生産性の問題、4番目は今日の問題との関連の問題、5番目は平等性の問題、6番目は将来の問題、7番目はシステム・ダイナミックスの問題です。上述の高等教育の諸問題に対処していく上で、様々の実的な問題が生じてきます。一つは指導ならびに研究者の問題、2番目は管理の問題、3番目は学生の入学問題、4番目は図書や研究資料の問題、5番目は実験室の問題、6番目はスペースの問題、7番目は財政的な問題です。

Well, after mentioning very briefly without explanation because of the time limit, then I'm going to continue about my own institution. My institute was originally founded as a private technical higher school. That was in 1957. And then in 1960 it was transferred to become one of the public institutions. And I think it is the second institute of technology in the country. We have at the present moment 5 faculties: the first one is the faculty of mathematics and science; the second one the faculty of industrial technology; the third one the faculty of civil engineering and planning; the fourth one the faculty of Marine Technology; and the last one is the program of non-degree or diploma program in technology. The number of students at present is about 7750. We are graduating about 1000 students a year at the present moment. We have 550 teaching staff. Most of them are junior. And we have roughly about 500 administrative staff at the present moment. And we have about 190 hectares of land and in one campus we have 187 hectares with buildings just 100,000 square meters at the present moment. The funding is very scarce and it is far below what is actually needed at the present moment. Well, I think I'll continue my address by mentioning linkage, cooperation and collaboration problem. As you know, our institution of higher learning in Indonesia is just in the developing stage. That's the reason I think it is very important for us to work together to get the system of help from others. That is why we say that cooperation, for us at the present moment, is a tool, or is a means to run or to implement the three functions of our institution, that is, education, research and public services. So numerous linkage and cooperations within the country are now available. We cooperate each other within state or public universities and we help quite a lot the private universities. I think don't imagine private universities like Toyo here, for instance. You can see that in a very short time we have to build many because of the problem of quantity, because of the issue of quantity. Of course we cooperate also with local industry because they are very important for our three functions. We also cooperate and have linkage with scientific centers, and also with universities overseas.

それでは、時間の関係上あまり詳しい説明抜きで簡単に述べさせていただきましたが、次に私の大学のことをお話しします。私の学校はそもそも私立の技術高等専門学校として設立されました。それは1957年のことでした。1960年になりまして、それは公立の教育施設の一つに仲間入りしました。私が覚えているところでは、この学校はインドネシアで2番目の工科大学であります。私どもの大学には現時点において五つの学部があります。第1は数学・理学部、第2は工業技術学部、第3は土木工学部、第4は海洋工学部、そして最後のは工学の学位を与えないつまり免状のみを与える課程であります。学生の在籍数は約7,750人です。現時点で年に1,000人の卒業生を送り出しています。教員が550名で、そのほとんどは若年層です。事務部門として500名ほどいます。学校全部の土地として190ヘクタールあります。現時点で一つのキャンパスに187ヘクタールの土地とちょうど10万平方メートルの建物があります。財源が非常に少なく、それは私どもがいま実際に必要としている金額より、はるかに下回るものです。ところで、次に連繫、協力、提携についてお話ししたいと思います。御存知のように、インドネシアの高等教育はまだ発展段階であります。そこで他からの援助体制を確立するために、協力することがたいへん重要であると私は思います。だからこそ、現時点で私たちにとって協力とは、私たちの教育機関の三つの機能である教育、研究、そして公共奉仕を遂行する道具あるいは手段となっていると、私たちは言っています。インドネシア国内の連繫あるいは協力体制が現在整っています。国立あるいは公立大学どうしで協力し合い、また私立大学をかなり援助しています。たとえば、この東洋大学のような大学がたくさんあるとご想像なさらないで下さい。ごく短期間のうちに特に量という問題を解決するために多くの大学を作らなければなりません。もちろん、私たちの3つの機能のために地域産業とも協力しています。また科学センターとそして外国の諸大学とも連繫を結び協力しております。

I think I'll mention a few of these international cooperations. The first one is with Eindhoven University in the Netherlands. This cooperation has been running since 1971. It is sponsored by NUFI, the Netherlands University Foundation for Cooperation dealing with telecommunication, education and research. Because the result of joint research is very important also to develop communication administration, then this institution, Toyo University, also joins the cooperation and becomes a triangle cooperation. Still in Holland we have linkage with Delft University of Technology. This is mainly in road, river and coastal engineering. Then, again, this one is supported by NUFI.

The third university in Europe is Leuven University in Belgium. Supported through the technical assistance of the Belgian Government. Leuven University is, I think, a catholic and so private university. For the first three years the assistance dealt with education and after that it has continued for joint research in environmental study. The next one, I think, is coming from the Federal Republic of Germany for the development of the faculty of marine technology. It started in 1977 and it is still on now.

The supply industries ready with the use for high technicians, the government decided to establish polytechnic institutions, with the length of study of 3 years. I think in this connection I want to mention that our institution has been given a grant by the Japanese government to establish a polytechnic institution specializing in electronic and telecommunication engineering.

Well, I think because of time I'm not going to continue further but I would like to say we have also linkage with several of institutions here in Japan, like Hiroshima University, Osaka Prefecture University, and I think a very important one is with Toyo University. Very specific to Toyo University, I think in my congratulatory message we mentioned that the agreement should be continued, for it is going to expire at the end of this year. I know that several professors have planned already to come to Sulabaya in March. But for us, I think the signed agreement is not very important but important, I think, is the spirit and reality. So finally I would like to express my sincere thanks to the president of Toyo University. Because of your invitation, it is really a new experience for me, and thank you very much.

こうした国際協力について2、3お話ししたいと思います。一つはオランダのアイントホーベン大学との協力であります。この協力は1971年からおこなわれてまいりました。その協力はNUFIつまりオランダ大学協力基金の支援を受けています。この基金はテレコミュニケーション、教育、研究に関するものです。コミュニケーション管理を発展させるために、ジョイント研究の結果も大変重要でありますから、この東洋大学もまたこの協力関係に加われば、3大学協力という関係になります。オランダではまたデルフト工科大学とも交流があります。この大学とは主に道路、港、橋、海岸に関する工学での交流をもっています。これもNUFI基金によって支えられています。

ヨーロッパにおける3番目の協力大学は、ベルギーのルーバン大学です。これはベルギー政府の技術的な援助によって支えられています。ルーバン大学はカトリックで従って私立大学だと思っています。最初の3年間は教育に関して交流がおこなわれ、その後は環境に関するジョイント研究が続いています。次は西ドイツとの交流だと思いますが、それは海洋工学に関する学部の発展のためのものです。1977年から始まって、今も続いています。

供給産業が高度技術者を使う準備ができたので、政府は3年制の高等専門学校を設立することを決めました。こうした関係でお話ししたいと思います。私どもの大学は、日本政府から電子及びテレコミュニケーション専攻の高等専門学校を設立する承認を与えられています。

もう少しお話を続けたいところなのですが、時間の関係上できないことになりましたので、日本における私どもと連繋を結んでいただいている大学の名前を挙げさせていただくことだけにとどめておきたいと思います。広島大学、大阪市立大学、特に東洋大学との連繋は重要であります。特に東洋大学については、私のお祝いの言葉の中で、協定の期限が今年の末に切れるということで、協定の延長をお願いしました。来年の3月にはこちらの数名の教授の方々がスラバヤにお出かけになる準備を整えておられることを知っています。しかし、私たちにとって、署名された協定はそれほど重要でなく、重要なのはその精神と実質だと思います。最後に東洋大学学長に心からお礼を申し上げたいと存じます。お招きいただき、私にとっては本当に新しい経験をすることができました。ご拝聴ありがとうございました。

— 要約 —

(新田) いま私に与えられた役割はこれまでの話を要約することにあります。私の感想的な要約として三つの点を挙げさせていただきます。第1点は東洋大学が交流を結んだ諸大学について今日お集まりの教員、職員、学生諸君が、正確な情報と知識を得ただろうということです。第2点目は、世界の各大学が共通に抱えている問題点が、この場でよく出されたのではないかと思います。一言でいえば神作学長がすでに何度も指摘された国際化と科学技術の発展にかかわる21世紀に向けての課題であろうかと思います。第3点目は、このような国際化と科学技術の発展をつなぐには一つの哲学が要するという問題であります。もう一つ付け加えさせていただきますと、トロクメ学長のご発言で明確になりましたように、今後の国際交流の方向性が明確に出されたように思われます。つまり、研究交流から始まって、やがては学生の交流を含む領域にまで発展していくことが国際的な交流だということが明確にされたということです。この100周年の集会がこれからの交流の出発点であるということをここで確認することをもって、私の要約に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

— 閉会の挨拶 —

(吉田) 今まででは東洋大学の国際交流委員の先生方を介して、本学と協定大学との国際交流がどういうものであるのか、どこまで進んでいるのか、今後どうやって充実、発展させていくのかということを皆様にお伝えしてきたかと思います。国際交流はこの創立100周年を契機として本格的に取り組んでいく時期にまいりました。このたび協定校である各大学の学長並びに副学長の先生が本学においでになりましたので、生の声で直接お伺いして、全教職員が国際交流について共通理解をもって本格的な学術交流、あるいは教育の交流をやっていこうと、この国際交流懇話会を企画した次第です。その趣旨が少しでも果たせたら幸いだと思います。もともと九つの大学の学長、副学長の先生方から短時間で各大学の歴史や伝統、特色、それに東洋大学との国際交流に何を期待するかをお話をいただくというのは無理はありましたが、その雰囲気なりを感じていただければ有難いと思います。また、ハードスケジュールのところを各大学の学長、副学長の先生方が熱心にこの問題についてお話くださって、感謝している次第です。また、最後に本日の交流懇話会の総括をしていただきました総合司会の新田俊三先生、それから本企画にご協力をいただいた今富正巳、宮治弘之、中里至正の各先生にもお礼申し上げます。これをもちまして、本日の国際交流懇話会を終わらせていただきます。

日韓国際シンポジウム

昭和62年10月17日(土)
白山校舎視聴覚教室

「伝統と近代化」

I. 近代化に伴う社会変動—その構造と意識—

近代化に伴う社会構造とその意識
韓国老人問題研究所所長

近代化に伴う社会変動

—文化と人口行動—

厚生省人口問題研究所所長

朴 在 侃
河 野 稔 果

II. 地域から見た諸問題

地域から見た諸問題

韓国国立慶北大学校

社会科学大学教授

柳 時 中

地域社会からみた伝統と近代化

—日韓比較の試み—

東洋大学教授

高 橋 統 一

III. 教育から見た諸問題

韓国の教育における伝統と近代化

韓国国立全北大学校

師範大学教授

郭 泳 宇

明治以降の教育にみる

近代化と伝統の関係について

東洋大学教授

倉 内 史 郎

シンポジウムを終えて

東洋大学アジア・アフリカ

文化研究所所長

針 生 清 人

講演部会委員

部会長	吉田辰雄
部会委員	藤島岳
〃	小林威
〃	山下忠孝
代表幹事	(飯塚勝重), 日野武彦〈62.4 人事異動による交替〉
幹事	小林正人
〃	園井芳顕
〃	(鈴木清志), 馬場英雄〈62.4 交替〉
〃	(日野武彦), 原林平〈62.4 交替〉
〃	(山内四郎), 金沢照夫〈62.4 交替〉
〃	藤野秀雄
〃	(浜田竜雄), 鈴木清志〈62.4 人事異動による交替〉
〃	小島浩〈62.5 追加〉

() 内は交替による旧委員

昭和 62 年 10月27日(火)	川越校舎 講義棟	○21世紀に向けての埼玉県のヴィジョン ○21世紀に向けての技術革新の展望	埼玉県知事 畑 和 三菱総合研究所会長 牧 野 昇
昭和 62 年 10月30日(金)	白山校舎 視聴覚教室	「21世紀のアジアそして日本の産業」 1) 日本の経営 — その過去・現在・未来 — 2) 中国の企業管理体制の改革	東洋大学教授 三 戸 公 北京工業学院管理工学科主任教授 洪 宝 華
10月31日(土)		3) アジア新興工業国と日本の競争分業 4) 企業の社会的責任と収益性	株野村総合研究所取締役 青 山 浩一郎 青山学院大学教授 森 本 三 男
昭和 62 年 11月18日(水)	白山校舎 240番教室	「日本近代化100年と日本経済の進路」 1) — 世界の中の日本の歩み — 2) — 近代化百年と現代化百年の経済 —	帝塚山大学教授 建 元 正 弘 名古屋大学教授 藤 井 隆
昭和 62 年 12月11日(金)	白山校舎 視聴覚教室	私立大学学長シンポジウム ○私立大学の将来	日本女子大学学長 青 木 生 子 慶応義塾塾長 石 川 忠 雄 上智大学学長 土 田 將 雄 東洋大学学長 神 作 光 一 (司会) 東洋大学教授 倉 内 史 郎
昭和 62 年 10月29日(木)	白山校舎 視聴覚教室	国際交流懇話会 ○国際社会における高等教育の役割	モンタナ大学副学長 Donald Habbe 復旦大学副学長 庄 錫 昌 華中工学院院長 黄 樹 槐 上海對外貿易学院院長 王 鐘 武 ストラスブール第1大学学長 Gilbert Laustriat ストラスブール第2大学学長 Etienne Trocmé オート・アルザス大学学長 Gérard Binder スラバヤ工科大学学長 Djoeriaman Oedjoe

創立100周年記念講演会開催一覧

特別記念講演会

開催日	開催地	演 題	講 師
昭和 62 年 11月 1 日(日)	東京都 椿山荘	○東洋大学の建学の精神と将来像 ○高等教育の未来	東洋大学教授 高 木 宏 夫 京都工芸繊維大学学長 福 井 謙 一

哲学堂祭記念講演会

開催日	開催地	演 題	講 師
昭和 62 年 11月 7 日(土)	東京都 中野公会堂	○日本人の宗教観 ○日本人の国際感覚	東洋大学教授 金 岡 秀 友 作 家 三 浦 朱 門

記念講演会

開催日	開催地	演 題	講 師
昭和 62 年 5月20日(水)	朝霞校舎 339番教室	○現代をどう生きるか — 哲学と宗教から — ○良識と法律	東洋大学教授 泉 治 典 元最高裁判所長官 藤 林 益 三
昭和 62 年 10月17日(土)	白山校舎 視聴覚教室	「伝統と近代化」 1) 近代化に伴う社会変動 — その構造と意識 — ○近代化に伴う社会構造とその意識 ○近代化に伴う社会変動 — 文化と人口行動 — 2) 地域から見た諸問題 ○地域から見た諸問題 ○地域社会からみた伝統と近代化 — 日韓比較の試み — 3) 教育からみた諸問題 ○韓国の教育における伝統と近代化 ○明治以降の教育にみる 近代化と伝統の関係について ○シンポジウムを終えて	韓国老人問題研究所長 朴 在 侃 厚生省人口問題研究所長 河 野 稠 果 韓国国立慶北大学校 社会科学大学教授 柳 時 中 東洋大学教授 高 橋 統 一 韓国国立全北大学校師範大学教授 郭 泳 宇 東洋大学教授 倉 内 史 郎 東洋大学アジア・アフリカ 文化研究所長 針 生 清 人
昭和 62 年 10月24日(土)	白山校舎 240番教室	○我が国福祉社会の将来と問題点	日本女子大学教授 一番ヶ瀬 康子

講師紹介

ソウ シヤクシヨウ
庄 錫昌

1933年 中華人民共和国蘇州生
1956年 上海復旦大学歴史学科卒業
1981～
1983年 米国ニューヨーク州立大学歴史学科にて客員学者として研究に従事
現在 復旦大学副学長，歴史学教授
中国軍事史学会副会長
上海市社綫理事
上海国際関係学会，中国アメリカ史学会，
中国世界現代史学会，中国イギリス史学会等の会員

専攻 歴史（英米史，欧米文化史）

著書

「西联戦争」
「世界近代史独学教材」
「文化人類学の理論構造」他

講師紹介

ヨウ ジョウカイ
黄 樹槐

1930年 生
1952年 武漢大学機械学科卒業
1952年 同助手
1953年 華中工学院助手
1955年 同講師
1978年 同教授
1984年 同博士指導教師
1985年 同院長
湖北省科学技術協会副主席
国务院学位委員会第二回学科評議構成メンバー
中国科学技術協会委員

専攻 機械

著書

「クランクプレス」
「機械式クランクプレス」他

講師紹介

ワ
主 ショウブ
鐘 武

1929年 中華人民共和国生
1950年 上海市大同大学商学院経済学科卒業
長期に渡り政府貿易部門及び対外貿易会社に勤務
1981年 上海対外貿易学院外貿経済学科副主任
同学院副院長を経て院長に就任
上海市国際貿易学会副会長
上海市保険学会理事
上海国際問題研究センター幹事

専攻 経済学

著書

「対外貿易基礎知識」(共著)
「輸出入業務」(共著)
「輸出入実務」(共著)
「貿易案例彙編」(共著) 他

講師紹介

ジルベール・ローストリア
Gilbert Laustriat

1929年 フランス、オート・ザルプ県生
1956年 ストラスブール大学理学学士
1960年 同物理学博士
1962年 同薬学部生物物理学正教授
1970年 ルイ・パスツール大学副学長、薬学部部長
1987年 同学長
国立科学研究センターの「生物体系の光物理研究」研究スタッフ

学位 物理学博士

著書・論文

多数

講師紹介

エティエンヌ・トロクメ
Etienne Trocmé

1924年 フランス、パリ生
1951年 ストラスブール大学教員
1965年 同教授
1973～
1978年 ストラスブール人文科学大学学長
1983年 ストラスブール人文科学大学学長

専攻 キリスト教の起源：16・17世紀ヨーロッパ史
学位 神学博士

著書

「“祈りの書”と歴史」
「マルコ伝の成立」
「ナザレのイエス」
「典礼としての受難」他

講師紹介

ジェラルド・バンダール
Gérard Binder

1946年 生
1975年 核研究ヨーロッパセンター（ジュネーブ）にて客員物理学者
1983年 オートアルザス大学教授
1987年 同学長
フランス電子工学，静電学，オートメーション工学教員会議国家書記
大学間国家委員会委員

専攻 オートメーション工学，製造工程制御，造形
学位 物理学国家博士

論文

「静止状態における反陽子—陽子消滅の際の重質中間子発生の証拠」
「境界時間限度の電磁型因子陽子の第一測定」他

講師紹介

ドナルド・ハービー
Donald Habbe

1931年 アメリカ, ミルウォーキー生
1952年 デニソン大学卒業
1954年 ウィスコンシン大学修士
1957年 同博士
1967～
1969年 モンタナ大学人文学部副学部長
1970～
1977年 同学部長
1977年 同副学長

専攻 政治学

学位 博士

講師紹介

ジュリアマン・ウジュ
Djoeriaman Oedjoe

1933年 生
豪州ニュー・サウス・ウェールズ大学卒業
1965～
1976年 スラバヤ工科大学化学工学部長
1980～
1983年 スラバヤ工科大学化学工学部長
1971～
1975年 スラバヤ工学院院长
1986年 スラバヤ工科大学長

専攻 化学工学

学位 博士

著書

Industrial and Engineering Chemistry 等に掲載

講演会を終えて

講演部会長 吉田 辰雄

昭和六十二年に東洋大学創立一〇〇周年記念行事を行うにあたり、大学では記念行事実行委員会のもとに、式典部会、講演部会、創作・展示部会、学生行事部会の四つの部会を組織した。

私どもの担当（主管）の講演部会は、講演という性格上、単なる大学一〇〇周年のお祭りに終らせるのではなく、この際、改めて大学の使命とは何であるのかの原点に立ち返り、現代における高等教育機関としての東洋大学の存在を鮮明に描き出すことと、講演という形を通して大学の使命を果すことにあつた。

それというのも、本来、大学は学術・研究の最高機関として、その高い水準を維持することと、広く人材を養成して社会に送り出し、また、学術・文化の発展に寄与することにある。最近の臨時教育審議会の数次にわたる答申でも明らかなように、個性重視の原則、学習社会への移行、変化への対応、が指摘され、とりわけ学習社会との関連で開かれた大学や教育・研究の国際化が社会的要請として、大学に求められてきている。

私どもは、こうした現代社会における大学のおかれた状況を十分に検討した上で、今回の講演を企画した次第である。まず企画の段階で、各学部・短大、大学院、研究所等から意見・要望を伺った上で、大学としての講演企画として、特別記念講演、キャンパス別講演会、シンポジウム、市民大学特別講座、国際交流懇話会等、合計十三回に及ぶ講演、シンポジウムを

開催する運びになった。

今回の私ども東洋大学の企画に対して、特に大学創立一〇〇周年記念とあって、講師の先生方には、公私ともにご多忙のところ、ご快諾をいただき、お蔭様で教育界、文学界、経済界、産業界、政界といった各界における著名な第一級の諸先生を講師としてお招きすることができたことは、東洋大学にとってこの上ない幸せであつた。

このたび、私ども講演部会の代表幹事を務めた教務部日野武彦次長をはじめ教務部学事課（小林正人、安岡みち子、宮本英行の諸氏）の手によって講演の全内容が、「東洋大学創立一〇〇周年記念講演集」としてまとめられ発行の運びとなった。

改めて、この講演集をみるにつけ、その当時の講演会の会場の雰囲気や、講師の先生方の熱弁を思い出すことができる。この講演集は当時の各講演、シンポジウムに参加した者にとってはまさに心のアルバムである。

またそれにも増して、講演集は東洋大学にとって貴重な財産であり、現在の私どもが共有し誇りにすることができると同時に、後世に文化遺産として伝達していくことができるものと確信している。今後ともすぐれた講演会、シンポジウムの企画を大学として継承していただきたい。

最後になったが、多忙だった創立一〇〇周年の時を講演部会のために一緒に苦勞していい汗をかくてくれた教職員の方々に講演部会を代表して改めてお礼を申し上げる。

平成元年二月二十八日

追 記

なお、本講演集には既出の論集から転載されたものがあることを、お断りしておく。

「日韓国際シンポジウム」

東洋大学アジア・アフリカ文化研究所「研究年報」1987年 第22号（1988年3月発行）より

市民大学講座合同講演「21世紀のアジアそして日本の産業」

洪宝華「中国の企業管理体制の改革」

青山浩一郎「アジア新興工業国と日本の競争と分業」

東洋大学経営学部経営論集第31号（東洋大学創立100周年記念号）（1988年3月25日発行）より

洪宝華氏の講演には、挨拶と講演後の質疑応答を加えた。

東洋大学創立 100 周年記念講演集

1989年3月20日発行

発行所	東 洋 大 学
〒112	東京都文京区白山 5—28—20
	電 話 03 (945) 7242
編 集	東洋大学創立 100 周年記念行事 実行委員会講演部会
	会 長 吉 田 辰 雄
印 刷	株式会社 東京プレス
	東京都板橋区桜川 2—27—12
	電 話 03 (932) 9291

イ 通用門番所并物置

ロ 教場

ハ 生徒控所小使部屋

ニ 便所

ニ 土蔵

ホ 事務所并教員

控所

通用門番所
并物置

物置

イ 平屋建坪約五

イ

ホ

ハ

ニ

イ

門番所

ロ

教場
階下

教場

三間

長

教場

四間

北